

【概要】やまなし日本語教育プログラム

～自分らしく生きていくためのことばの活動～

背景と目的

地域社会で「ことばの力」を育む

近年、在留外国人の増加とともに、多様な背景を持つ人々が地域社会の一員として生活しています。こうした状況の中、日本語教育には、単なる言語習得の機会にとどまらず、在留外国人の地域社会への参画を支える基盤としての役割が求められています。

「やまなし外国人活躍ビジョン」及び「やまなし多文化共生社会実現構想」の理念に基づき、外国にルーツを持つ方々が地域社会の中で他者と関わりながら生きていくための「ことばの力」を育むことを目的として本プログラムを開発しました。

理念と目指す姿

「教わる場」から「育む場」へ

■ 共生社会の実現

多様な価値観を認め合い、誰もが自分らしく活躍できる共生社会の実現を目指します。

■ ことばの力を育む学びへの転換

参加者が主体的にことばを用い、他者と関わり合う場を目指します。そのやり取りを通して関係性を育み、社会との関わりを広げていきます。

プログラムの3つの特徴



山梨の生活実情を反映

山梨で暮らす外国人住民や関係機関への調査・インタビューをもとに、実生活で必要とされる言語使用場面を抽出。40のトピックとして整理しました。



「ともに考え、学び合う」活動

参加者同士で経験や考えを共有しながら学び合う「ことばの活動」が中心です。意味のやり取りを通じて、実際のコミュニケーション能力を高めます。



レベルに応じた言語活動

『日本語教育の参照枠』A1からB1まで、トピックごとに具体的な活動を提示。参加者の目的や習熟度に応じて言語活動を柔軟に選択できます。



主体的な社会参画の促進

日常の課題を自ら解決するとともに、主体的に社会に関わるきっかけが生まれます



相互理解を基盤とした地域づくり


住民同士の理解が深まることで、地域全体の活性化と共生社会の意識醸成につながります



多様な人々が安心して暮らし続けられる基盤の形成

人や地域との関りを通して、誰もが社会の一員として自分らしく活躍し、安心して暮らし続けられる環境形成につながります

参加者向けツール




■活動集
トピック毎に1冊ずつ用意されています。実際の場面を想定した、全318のタスクを収録しています。参加者の目的や習熟度に合わせた柔軟な活用が可能です。

■活動の記録
参加者が学習の軌跡を可視化し、自己の成長を実感・評価できます。

〈活動集の一例〉

指導者向けツール



■ツール一式

- ・理念、目的、目標
- ・トピックと言語活動一覧
- ・活動の指針
- ・活動の解説
- ・終了時アンケート(多言語)
- ・実践で大切にしたいこと

理念を活動に反映させるための行動指針、タスクの目的等、実践における指導者の拠り所となるセットです。

〈指導者向けツールの一例〉

具体的なトピックの一例

<p>健康・安全</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・病院を受診する ・自身や台風のために準備をする 	<p>住居・生活</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・家を探す ・引っ越しの手続きをする
<p>働く・子育て</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・職場で人間関係をつくる ・仕事の指示や説明を理解する ・学校のお知らせ 	<p>社会活動</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・地域の仕事をする ・ごみ出しのルール ・交通ルール

従来型の学びとの比較

比較項目	従来型	やまなしプログラム
スタイル	教科書に沿った一律の講義形式(知識伝達)	活動中心の学び (参加者の主体的参画による気づきの発見)
ゴール	知識の蓄積 正確な文法の習得	社会の中での 自己実現 と 他者との 関係性の構築
関係性	「教える・教えられる」上下関係	「ともに考え、学び合う」 対等 な関係性

外国にルーツを持つ人々を支援の対象ではなく「ともに地域をつくる主体」として捉えているのが本プログラムの特徴です。「知識を伝達し、ことばを教える場」という従来の考え方から「参加者が社会の中で自分らしく生きるためのことばを育む場」へと、学びのあり方を根本から転換(パラダイムシフト)させています。